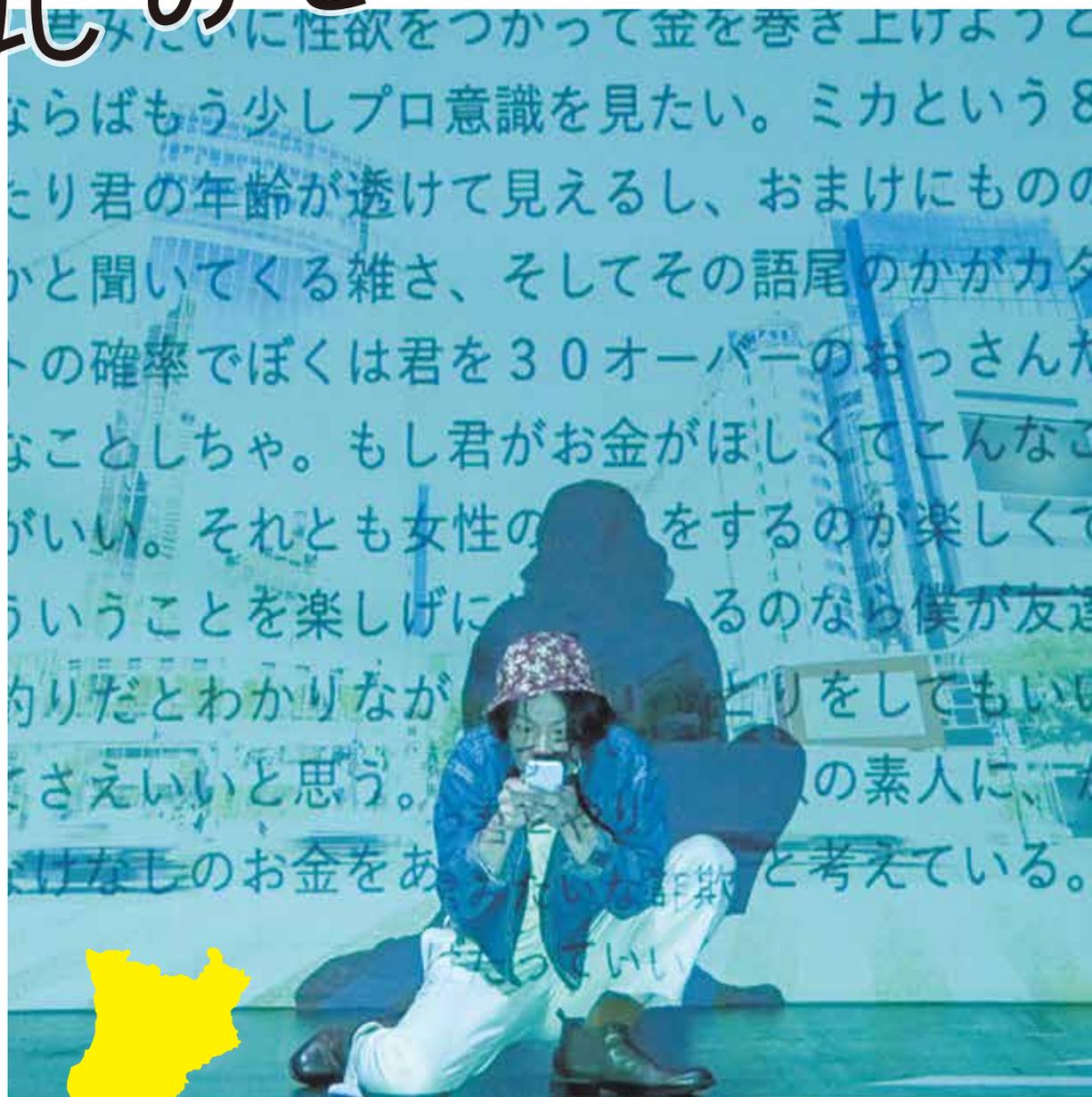


北のとびら

vol. 130

令和5年8月



特集 | 山本卓卓(範宙遊泳) interview

バナナの花は食べられる

第66回岸田國士戯曲賞受賞作・札幌初公演

アート巡礼 檜山／つくる人in江差町 松村隆

ジモトデザイン 奥尻町・奥尻ワイン

マチカド芸術 乙部町『潮笛』／ART FILE モントペリ

檜山特集



山本さんが演劇に関わり始めたのは、高校時代の部活動がきっかけとのことですが、それ以前に演劇に触れる機会がありましたか？

山本 演劇の原体験は小学校時代のお楽しみ会です。当時好きだった仮面ライダーやお笑いの要素を取り入れた脚本を書いて発表していました。それが「演劇」だということ意識はなかったのですが、クラスメイトから「楽しんだよ」と声をかけられるのが嬉しくて。セリフを並べたメモ帳のようなものでしたけど、お楽しみ会の時だけ、自分がクラスの人気者になったような気がしていました。もともと好奇心旺盛で、写真をやっていた祖父の影響もあって、演劇を志す前から映画や音楽、小説などジャンルを問わず

ずあらゆる文化芸術を自分の「栄養」として意図的に摂取していた感覚がすごくあります。

高校時代は映画に興味があったことから「映画演劇部」に入部されていますね。

山本 部活名に「映画」とありましたが、実際は演劇しかやっていない部活で。けれど、チャップリンも最初から映画を撮っていたわけではなく、始まりは舞台。演劇は全ての演技表現のベースにあると思いついて、「映画を撮るために演劇をしよう」と考えました。

平田オリザさんが教授として演劇指導をしていた桜美林大学への進学を決めたのは？

山本 部室の本棚に、小劇場を賑わせたり、演劇史に名を残してきた先人たちの戯曲集や演劇書が並んでいました。他の部員は誰も手をつけていない本棚でしたが、僕は全て読んでいて、進路を考える頃には演劇の面白さに気づき始めていました。映画を撮るのは別に今じゃなくてもいい、まずは演劇をやろう、と思ったんです。



「僕はとても空想する子どもで、入眠までの時間も長く、目は閉じているけれど頭の中で空想が続いている、そんな子どもでした」と話す山本さん



インタビュー・範宙遊泳

山本卓卓

YAMAMOTO SUGURU

●山本卓卓
劇作家・演出家。範宙遊泳代表。
幼少期から摂取した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築。アジア諸国や北米での公演や国際共同制作も多数。
『幼女X』でBangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。
『バナナの花は食べられる』で第66回岸田國士戯曲賞を受賞。

●範宙遊泳 Theater Collective HANCHU-YUEI
2007年より、東京を拠点に活動する演劇集団。
現実と物語の境界をみつめ、その行き来によりそれらの所在位置を問い直す。
生と死、感覚と言葉、集団社会、家族、など物語のクリエイションはその都度興味を持った対象からスタートし、より遠くを目指し普遍的な「問い」へアクセスしてゆく。
舞台上に投写した文字・写真・色・光・影などの要素と俳優を組み合わせた独自の演出と、観客の倫理観を描きこむ強度ある脚本で、アジア諸国・北米での公演や共同制作も多数。

第66回岸田國士戯曲賞受賞作・札幌初公演

バナナの花は食べられる

PHOTO/表紙・舞台写真：竹内道宏、インタビュー写真：大橋泰之（マカロニ写真事務所）

第66回岸田國士戯曲賞を受賞した範宙遊泳（はんちゅうゆうえい）の「バナナの花は食べられる」。フィクションで現実を乗り越え生きていこうとする人々を描いた本作が、2023年9月に札幌で初公演されます。待望の札幌公演を前に、範宙遊泳の作・演出家・山本卓卓さんに話を伺いました。

自分自身をこの世界の主役じゃないと思っっている人が愛おしい

桜美林大学入学後、すぐに
範宙遊泳を立ち上げていま
すが、劇団ではなく「演劇集
団」と表現されていますね。
山本 高校時代に部室で読
んだ戯曲集や演劇書に刺激
を受けて、入学当初から教わ
るよりも自分でやりたいとい
う気持ちが強かったんです。
演劇をやるならば劇団を立
ち上げるべきだろう、と。た
だ、「演劇に人生を捧げる」
のではなく、「数あるやりたい
ものの二つに演劇がある」とい

う感覚で、範宙遊泳は劇団
ではあるけれど、クリエイ
ター集団のような形態をイ
メージして立ち上げました。
古くから演劇界隈にあった
「貧乏でも苦しくても、やる
気さえあれば良い、お金なん
て「次だ」といった考えには
違和感があつて。演劇で食え
るようになるには、かなりの
時間と覚悟が必要です。僕
自身は続けていきたいけれ
ど、それを劇団全体に強いる
べきではなく、就職するのも

自由だし、自分の人生を選
んでほしいという思いがあり
ました。
演劇の礎を築いた先人たち
へのリスペクトと、演劇に向
き合う姿勢の柔軟さを両立
しているんですね。
山本 はい。演劇にあるそ
うしたネガティブな要素は
柔軟に変えていきたかった。
楽しい方がずっといいじゃ
ん！って思っています。

楽を聴きながら読書をし、自
分で教室の空気を作る……
そんな生徒でした(笑)。僕自
身、「フロントマンじゃない」と
いう自覚がずっとあったんだ
けれど、お楽しみ会では脚本
を書いて演劇をするし、みん
なのことは楽しませたいとい
う気持ちもあつて。僕は、自
分自身をこの世界の主役
じゃなくと思っっている人がと
ても愛おしいんです。自身を
主役だと考えている方がずつ
と生きやすいだろうに、そう
考えない人をとて謙虚だ
と思うんです。「バナナの花
は食べられる」に出てくる登
場人物たちは揃って主役的
なキャラクターではありません
。けれど、僕はいつだって
そういう人間を主役にした
くなるんです。

山本 人間の本質を描くこ
とを諦めたくない、疲れたく
ないかとも感じました。これ
は受賞した今だからこそ言
えることなんですけどね。受
賞を逃してきたこれまでは
結構辛いものがあつて、「あな
たに気があるんだけど、ね」
なんて、思わせぶりの態度を
取られているような感覚でし
たから(笑)。やっとな振り向い
てもらえました。
「バナナの花は食べられる」
は、待望の札幌公演です。



山本 学生時代からずつと、
周りから変なやつだと思われ
ていたんじゃないかな。出来
上がった空気の中に一人で
入っていくのがとにかく嫌
で、誰よりも早く登校して、
教室で一人イヤホンをして音

山本 人間の本質を描くこ
とを諦めたくない、疲れたく
ないかとも感じました。これ
は受賞した今だからこそ言
えることなんですけどね。受
賞を逃してきたこれまでは
結構辛いものがあつて、「あな
たに気があるんだけど、ね」
なんて、思わせぶりの態度を
取られているような感覚でし
たから(笑)。やっとな振り向い
てもらえました。
「バナナの花は食べられる」
は、待望の札幌公演です。

山本 範宙遊泳は毎回、意
識的に作風を変えています。
範宙遊泳を以前見たことが
ある人は、その変化を感じて
いただけるだろうし、初めて
の人は「こういう演劇もあり
なんだ」と思ってくれるとす
ごく嬉しいです。



人間の本質を描くことを諦めたくない、疲れたくないと思っっています

いくとそれは、合わせ鏡にし
た僕自身のことなのかもし
れないと思っながら創作して
います。
登場人物の本質を掘り起こ
すというのは同時に、自分自
身を曝け出すような作業な
んですね。

山本 僕は自分を取り巻く
環境や、社会の動きなどリア
ルタイムで起こっている出来
事を無視したくないタイプ
の作家です。現代社会の中
で自分の心が今、どういう状
態にあるのかわ
いことも全て
作品に入れてい
きたい。演劇つて
暮らしの延長線
上にあるものだ
と思っっています。
例えば、僕は作
品に文字や映像
を演出として取
り入れています
が、現代って手元
に活字があるこ
とが日常じゃな
いんですか。演劇は

常に喋り続けているけれど、
現実には話すよりも携帯電話
を見ている時間の方が長い。
文字をスクリーンに投影す
ることで、携帯電話を見てい
るという状態を抽象化して
表現しています。
演劇は暮らしと地続きにあ
るということですね。「バナ
ナの花は食べられる」では、
コロナ禍という出来事も特
別視することなく描いてい
ました。
山本 過去に起きた全ての

出来事は必然だった、と考え
て生きています。そうした方
が、様々な困難に対しても割
り切ることができずから。
僕は多くの人が素通りして
しまう出来事を無視できな
い性格なんだと思っます。他
人にとつて些細なことでも僕
にとっては大事で。でもそう
した困難も、自分が成長する
ための必然なんだと考える
ことで、気持ちが楽になる
し、生きやすくなりました。
コロナという出来事もまた暮
らしの中の通過点であり、困
難だけれど乗り越えられる
問題なのだと思っ自身にも
言い聞かせていました。

山本 自分自身にもたらず
ものは決して小さなもので
はなく、岸田賞の権威を肌で
感じました。同時に、岸田賞
は権威ではあるけれど、関係
者も含めたお祭り騒ぎのよ
うなエンターテインメントに
して楽しんでいいのでは

山本 人間の本質を描くこ
とを諦めたくない、疲れたく
ないかとも感じました。これ
は受賞した今だからこそ言
えることなんですけどね。受
賞を逃してきたこれまでは
結構辛いものがあつて、「あな
たに気があるんだけど、ね」
なんて、思わせぶりの態度を
取られているような感覚でし
たから(笑)。やっとな振り向い
てもらえました。
「バナナの花は食べられる」
は、待望の札幌公演です。



岸田戯曲賞受賞から少し
時間が経ちましたが、現在の
心境をお聞かせください。
山本 自分自身にもたらず
ものは決して小さなもので
はなく、岸田賞の権威を肌で
感じました。同時に、岸田賞
は権威ではあるけれど、関係
者も含めたお祭り騒ぎのよ
うなエンターテインメントに
して楽しんでいいのでは

範宙遊泳

バナナの花は食べられる

【作・演出】山本卓卓
【出演】筈本幸良 福原冠 井神沙恵 入手杏奈 植田崇幸 細谷貴宏

日時	2023年9月22日(金)・23日(土)・祝 [22日]18:30開演 [23日]13:00開演 ※開場は開演の30分前
会場	クリエイティブスタジオ (札幌市民交流プラザ3階) 札幌市中央区北1条西1丁目
料金 (税込)	全席指定 前売券 一般/3,500円 U25/2,000円 当日券 一般/4,000円 U25/2,500円

STORY 2018年夏。33歳、独身、彼女なし、アルコール中毒、元詐欺師前科一犯の“穴蔵の腐ったバナナ”は、マッチングアプリ・TSUN-TSUN(ツンツン)に友達を募る書き込みをする。出会い系サクラのバイトをしていた“男”は、釣られているとわかりながら課金してきたバナナに興味を持ち、彼と会ってみることにする。「人を救いたいんだ…」と言うバナナと男はいつしか僕／俺「ら」になり、探偵の真似事しながら諸悪の根源を探しはじめる。

●公演に関するお問い合わせ/
北海道文化財団 TEL 011-272-0501(9:00~17:30 土日祝日を除く)
主催:公益財団法人北海道文化財団 札幌文化芸術劇場 hitaru(札幌市芸術文化財団)
後援:北海道 制作協力:ダブルス 協力:tatt inc.

ロング版
インタビューを
WEBで公開中

檜山で探すアート

※掲載されている営業時間やイベント開催日時等が変更になる場合があります。



05 湯船に浸かって楽しむ美術鑑賞 おとべ温泉 いこいの湯



絵画や陶芸品、彫刻や壁画など、乙部町出身の作家による数々のアート作品がずらりと並ぶ町営の日帰り入浴施設。温泉とアートを共に楽しめる「温泉美術館」として親しまれています。

- 住所/乙部町字館浦527-2 ●TEL.0139-62-3264
- アクセス/道の駅ルート229元和台から車で約15分
- 営業時間/11:00~21:00 ●定休日/月曜
- 入浴料/12歳以上400円、6歳~11歳200円、5歳以下100円
- 駐車場/あり

01 地元有志が整備・管理する公園内に建つ記念館 今村公園 今村記念館



今金町開拓の祖・今村藤次郎の七女・由井子さんが暮らした住居を活用した記念館。今村藤次郎の功績年表等のパネル展示や、子ども達とお年寄りの交流スペースも設置しています。

- 住所/今金町字今金598-3 ●TEL.0137-82-0501(管理会社山一木材工業㈱)
- アクセス/今金小学校から長万部町方向へ徒歩2分
- 開館時間/土曜・日曜10:00~15:00 ●休館日/不定休
- 入館料/無料 ●駐車場/6台(無料)
- https://imakane-yamaichi.co.jp/imamura-park/

02 廃校になった校舎に構えた自作の新窯 ソロソロ窯



沖縄で修業を積んだ白田季布さんの工房兼ギャラリーショップ。北海道の土を使い、道産木材で焚く窯で作る器は、沖縄のやちむんの風合いに北海道の自然を融合させた温かさが魅力です。

- 住所/厚沢部町字清水101-1 ●TEL.0139-64-3772
- アクセス/厚沢部道の駅より車で約20分(道道67号 八雲落部方面)
- 営業時間/土曜・日曜10:00~16:00 ●定休日/冬季休業有り
- 入館料/無料 ●駐車場/5台(無料)
- https://solosolokama.com

06 閉校した稲穂小学校を活用した多目的施設 稲穂ふれあい研修センター



歴史民俗資料展示室には、古代から近現代までに奥尻島で出土した土器・石器や古民具を展示。青苗遺跡で発掘された「丁字頭勾玉」作りなど、奥尻島の歴史を体感できます。

- 住所/奥尻町字稲穂162番地(旧稲穂小学校)
- TEL.01397-2-2201
- アクセス/奥尻港フェリーターミナルから車で20分
- 開館時間/毎週木・土曜9:30~16:30
- ※今年度は10月28日(土)まで開館
- 入館料/無料 ●駐車場/あり
- https://www.town.okushiri.lg.jp/hotnews/detail/00001479.html

07 町内に点在する彫刻を楽しむ 野外彫刻群



日本初の公許女医・荻野吟子が開業した場所に標柱、荻野吟子小公園には顕彰碑が建立。他にも町内には三本杉海水浴場の人魚や蝸など、多くの彫刻作品が点在しています。

- TEL.0137-84-6260(教育委員会)
- 荻野吟子開業の地/せたな町瀬棚区本町3区
- 荻野吟子小公園(旧国鉄瀬棚駅跡地)/せたな町瀬棚区本町9区
- 三本杉海水浴場/せたな町瀬棚区三本杉

04 江差町歴まち地区の活蔵拠点のギャラリー 皐月蔵ギャラリー



江戸時代末期に建てられた4棟の土蔵が連なる建物をリノベーションしたカフェ併設のギャラリー。蔵の雰囲気や音響の良さを活かし、写真展や絵画展、ライブ会場などに活用されています。

- 住所/江差町字姥神町18-1 ●TEL.090-7656-5473
- アクセス/函館駅から車で約1時間30分
- 開館時間/11:30~16:00 ●休館日/月曜日~金曜日、冬季休業
- 入館料/無料 ●駐車場/あり ●https://esashi.sakura.ne.jp/may

03 松前藩の礎を築いた武田信廣の館跡 勝山館跡ガイダンス施設



勝山館跡からの出土品の一部や、館跡の200分の1の模型、アイヌの墓を含む土葬墓、火葬墓のレプリカなどを展示。和人とアイヌの共生の歴史を伝えています。

- 住所/上ノ国町字勝山427 ●TEL.0139-55-2400
- アクセス/道の駅上ノ国もんじゅより車で4分
- 開館時間/10:00~16:00
- 休館日/月曜(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日
- ※今年度は11月12日(日)まで営業
- 入館料/大人200円、小・中・高校生100円 ●駐車場/あり
- http://www.town.kaminokuni.lg.jp/hotnews/detail_sp/00000391.html

日常に溶け込むデザインの魅力に迫る！



▶「奥尻ワイン」は、震災のあった島というイメージを明るい印象に変えていきたい、という思いを込めて開発された。コロナ禍で一時売り上げが落ち込んだものの、今年度は前年比倍以上の売り上げを見込んでいる。

国内初の
離島ワイナリーが
世界に誇る奥尻ワイン

北海道南西端の日本海上に浮かぶ奥尻島。海岸線には奥尻島のシンボル「鍋釣(なべつる)岩」や「カプト岩」など、風雪や波によって独特の形状を描いた奇岩が並び、奥尻ブルーと呼ばれる澄んだ海に映えています。

「奥尻ワイン」のエチケット(ラベル)は、この心惹かれる絶景を再現しています。

「ボトルを傾けることは奥尻島をめぐることをコンセプトに、エチケットを奥尻島一周に

見立て「鍋釣岩」を基調に、奥尻島に点在する奇岩や小島を配置。ワインと共に島の景色に思いを馳せる、奥尻愛を感じるデザインに仕上がっています。

2008年に創業した「奥尻ワイナリー」は日本初の離島ワイナリー。空港近くの高台に広がる葡萄畑はかつて牧草地として使用されていた場所で、メルローやシャルドネ、ピノ・ノワール、ピノ・グリ、ツヴァイゲルトレーベ、ケルナーといったワイン用品種のほか、山葡萄など約65,000本が栽培されています。

ワイン造りのきっかけは、1993(平成5)年7月に発生した北海道南西沖地震。壊滅的な被害を受けた島には巨額の復興費が投じられ、奥尻ワイナリーの親会社である海老原建設も復興特需に沸きました。とはいえ、この状況は長くは続かないと感じていた同社



◀「鍋釣岩」は中心が自然侵食により空洞になっていて、鍋の取っ手(つる)に似ていることが名前の由来。夜にはライトアップされ、幻想的な姿を魅せている。

は「復興後も雇用の受け皿となる新たな産業を」と新規事業に着手。奥尻ブランドのワイン造りに挑戦すべく、葡萄栽培をスタートさせました。奥尻の土地に合う栽培方法を模索しながら、ひとつひとつの工程を丁寧に行い、ワインの質を高めていく、この途方もない挑戦の末、「奥尻ワイン」は誕生しました。

エチケットはワインにとっての顔。このデザインは、「奥尻らしさを表現したい」という依頼のもと、5社でのコンペを経て決定されました。「島の形をモチーフにしたものや波を表現したデザインなど、素晴らしい提案をいた

だしましたが、作り手として一番イメージに合うものがこのデザインでした」と、奥尻ワイナリーの常務取締役・菅川仁さんは話します。

奥尻島のブナ林がたたえる豊かな水と海から吹きつける風に育てられた葡萄は、ミネラル分を多く含み、「潮(海)の香りがする」と道内外の愛好家からも高い評価を得ています。「北海道産ワインの醸造地の一つとして、世界に認められるようなワイン造りに邁進したい」という作り手の思いと、奥尻島の象徴的な絶景をボトルに携えて、離島のワインは世界に羽ばたいています。



いにしえ文化語り部会長 松村隆

日本海に面した江差町は、江戸時代から明治にかけて「シン漁」とその交易で繁栄した港町。「数十軒もの茶屋、浜小屋が浜辺に並び、全国から交易船がやってくる旧暦5月の賑わいは「江差の五月は江戸にもない」と言われるほどでした。賑やかな港町には花街が栄え、そこで生まれた芸能文化は、町民の感性を育てました」と語るのは松村隆さん。28歳の時に檜山郡泊村から江差町の市街地に移住。繁栄期の面影を残す町並みに刺激を受けて「江差の町」をテーマに写真を撮り始めました。

から執筆依頼を受けた私は、江差追分を求める人々の情念に突き動かされるようにして、町の歴史を辿り、話を聞き、連載を始めました」と、振り返ります。

今や多くの著書を持つ松村さんの執筆活動の原点「江さし草」は、地域の文化団体「江さし草会」が発行する文芸誌。「江差町の貴重な生活史になり得る」と松村さんが胸を張る同誌は、1976(昭和51)年の創刊以来一度も休刊することなく、1992(平成4)年から「小中学生俳句展」を開催し、地域の文化振興に貢献。今年の3月、「江さし草会」は北海道地域文化選奨に選ばれました。

松村さんは1993(平成5)年から約30年間に渡り同会の三代目編集長兼代表を務め、2022(令和4)年に退いた後も執筆者の



松村隆(まつむら たかし) 1926年江差町生まれ。自治体職員を経て、1985年江差追分会館館長、1993年「江さし草会」代表。現在は「いにしえ文化語り部会」会長。著書に「追分ひと模様」ほか多数。令和3年度アート選奨K基金賞(北海道文化財団)。●語り部茶屋 江差町中歌町70 ☎090-8705-7647(松村)

一人として連載を続ける一方、古い土蔵を改装し、江差の文化を伝える施設「語り部茶屋」を立ち上げました。「執筆活動の中で辿り着いたのは、江差町には花街もたらした文化の活力があるということ。北陸から伝わった追分節が町の風土や生活を歌い込み、人々を魅了する民謡に磨かれたこと、地方発行の文芸誌が半世紀も続けられたこと、全てが町民の感性と町に根付いた文化の賜物です」と松村さん。97歳になった現在も連綿と続く江差町の文化を後世に伝えようと力を注いでいます。

江差町にゆかりのある道内外の会員約170人が随筆や写真、俳句や詩などを寄稿する文芸誌『江さし草』。年4回発行。



左から「カプト岩」、「屏風立岩」「鍋釣岩」、「無縁島」、「モッ立岩」。いずれも奥尻島に実在する岩と小島で構成されている。

DATA

(株)奥尻ワイナリー／奥尻町字米岡177 TEL01397-3-3290 <https://okushiri-winery.com/>
◆工場(見学は前日までに要予約)／奥尻町字湯浜300 TEL 01397-3-1414



言葉はなくともその時々で表情を変える動植物たちの魅力

10 年間勤めていたデザイン会社を辞め、その後の転職にも失敗。「この先どうすれば良いのだろう」と先行きに不安を感じていた頃に、友人に誘われて蘭越町のアートスクールに参加したり、昔から好きだった画家・ミロコマチコさんの大胆な筆遣いに改めて感銘を受けるなど、アナログ手法の絵に触れる機会がたびたびありました。

描き上げてみないとわからないワクワク感、同じものを二度と描けない面白さなど、それまでで

デジタル派だった私は、アナログの楽しさにのめり込むようになりました。

本格的に絵描きの道に進むきっかけになったのは、初めて参加したイベントで自分の作品を販売したことです。全ての絵が完売し、この体験が喜びとともに自信をもたらし、2022年に「モントペペリ」の屋号で独立することになりました。以来、絵を発表するたびに人とつながりや縁が増え、大きなやりがいを感じています。

自然の中にいる身近な野生

動物、散歩中に見かける雑草、お気に入りの古着屋や古道具店、テレビドラマに出てくる洋服やインテリア、子どもの描いた絵や文字、様々な国の民芸品など、私はあらゆる場所やモノ、生物からインスピレーションを得ています。

なかでも、言葉こそないものの、その時々で表情を変えて動いたり咲いたりする動植物たちに魅力を感じ、元気を癒しをもたらしています。

摩周で実際に出会った可愛いキタキツネを描いた「摩周のキタキツネ」(上段左)、お別れをする人のことを考えながら描いた「白猫と花」(上段中央)、阿寒の温泉街付近でエゾシカの群に出会った時に感じた溢れる生命力と、夜になると飛び出してくるの

ではないかというハラハラ感を表現した「阿寒湖のエゾシカ」(上段右)など、現在開催中の「いきものたちの、ひとみのおく」では、動植物をテーマにした作品を中心に展示。生き物たちが精一杯生きるように、私も精一杯絵を描いています。その楽しさや自由さを感じてもらえると嬉しいです。



モントペペリ

釧路市生まれ。札幌在住。北海道芸術デザイン専門学校卒業後、10年の会社勤務を経て、2022年から「モントペペリ」(山椒をイメージした造語)の屋号で本格的に絵を描き始める。
●公式WEBサイト
<https://riesakurai.jimdofree.com/>



メキシコの帽子(ソンブレロ・デ・チャロ)が描きたくて生まれた作品。陽気なメキシコ人をイメージしています。

北海道文化財団アートスペース企画展 vol.52

モントペペリ展「いきものたちの、ひとみのおく」

2023.6.14~9.8 9:00~17:00 ※土日祝休館 ※都合により臨時休館する場合があります。

場所 / 札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル3F 問い合わせ / 011-272-0501

入場
無料



詳しいSTORYはWEBで



乙部町の道の駅「ルート229元和台(げんなだい)」に建つ「潮笛」。1795(寛政7)年、乙部町の漁師3人が中国へ漂流した「韃靼(ダツタン)漂流記」をモチーフにしたモニュメントで、函館の工芸家で日展理事の折原久左エ門と、乙部町内の工芸家・中川眞一郎による共同制作。

財団事業インフォメーション（2023年9月～10月）

※事情により公演やイベント等の開催が変更または中止になる場合があります。事前にそれぞれのお問い合わせ先にご確認ください。また、各公演等の開演時間については問い合わせ先にご連絡ください。

文化提携交流事業

● 範由遊泳「バナナの花は食べられる」札幌公演

日時：2023年9月22日（金）～23日（土）

会場：クリエイティブスタジオ

（札幌市民交流プラザ 3階）

入場料：【前売券】 一般 3,500円

25歳以下 2,000円

【当日券】 一般 4,000円

25歳以下 2,500円

問い合わせ：（公財）北海道文化財団

☎011-272-0501



まちの文化創造事業

● 和の幻想と現代を万代に語りつがへと

日時：2023年9月15日（金）～16日（土）

会場：小樽市能楽堂

入場料：【前売券】3,500円（1日券）、6,000円（2日券）【当日券】4,000円（1日券）

問い合わせ：吉松派若柳流旭會事務局 ☎080-4164-6776

● 第3回 ひがし北海道太鼓まつり

日時：2023年9月24日（日）

会場：釧路市生涯学習センター「まなぼと常舞」

入場料：1,000円

問い合わせ：日本太鼓財団北海道道東支部 遠藤 ☎090-2694-0461

アートシアター鑑賞事業

● ELEVEN NINES「ひかりごけ」

日時：2023年9月2日（土）～3日（日）

会場：富良野演劇工場

入場料：一般 2,500円、小中高生 1,500円

問い合わせ：NPO法人ふらの演劇工房 ☎0167-22-3800

● 童話を楽しむ音楽会

日時：2023年9月16日（土）

会場：東神楽町ふれあい交流館

入場料：500円

問い合わせ：東神楽町 ☎0166-83-5407

● 和洋の楽器で心が躍る「名曲コンサート」

日時：2023年10月7日（土）

会場：標津町生涯学習センター

入場料：1,000円

問い合わせ：標津町文化協会 ☎0153-82-2900

● 小澤ちひろコンサート

日時：2023年10月25日（水）

会場：北見芸術文化ホール

入場料：【前売券】一般 1,000円、高校生以下 500円

【当日券】一般 1,500円、高校生以下 800円

問い合わせ：（株）日専連ニックコーポレーション ☎0157-31-0909

● 日本の音を追求する実力者4人が集う！

民謡・三味線・太鼓・尺八、和の競宴

日時：2023年10月27日（金）

会場：和寒町公民館

入場料：1,000円

問い合わせ：和寒町芸術文化公演会実行委員会 ☎0165-32-2477

● 第10回いっしょにね！文化祭

日時：2023年10月7日（土）

会場：北翔大学 札幌円山キャンパス

入場料：無料

問い合わせ：NPO法人三角山 ☎011-676-3955

● “0歳から100歳への道しるべプロジェクト”

「未来へはばたく子どもたち、君たちが明日のとびらをひらく」

日時：コンサート：2023年10月8日（日）

小さな美術館：2023年10月8日（日）～9日（月・祝）

会場：蘭越バームホール

入場料：無料

問い合わせ：NPO法人花と笑顔と音楽の里 難波 ☎090-6446-6254

舞台芸術情報提供事業

● 北海道舞台芸術情報フェア2023

音楽、演劇、舞踊、伝統芸能等の公演企画の最新情報を道内の市町村や文化施設等に提供し、次年度事業の検討に資するとともに、文化施設等と公演企画団体の相互の連携を図ることを目的とします。当日は各公演企画団体が設置ブースにおいて、資料提供や情報交換を行います。

日時：2023年9月13日（水）

会場：ACU 大研修室1614、大研修室1606、中研修室1605

（札幌市中央区北4条西5丁目アスティ45 16F）

対象：市町村及び市町村教育委員会の文化事業担当者

文化施設の事業担当者

文化団体・舞台芸術鑑賞団体の担当者

企画を応募した公演企画団体 等

参加料：無料

申込方法：北海道文化財団のホームページ「お知らせ」からお申込み下さい。

<https://haf.jp>

申込締切：公演企画団体：2023年9月1日（金）

市町村等：2023年9月6日（水）

問い合わせ：（公財）北海道文化財団 ☎011-272-0501



INFO



WEBマガジン「北のとびら」。冊子にはない情報も！ぜひご覧ください。

WEBマガジンはこちらから！ <https://haf.jp/kitanotobira/>